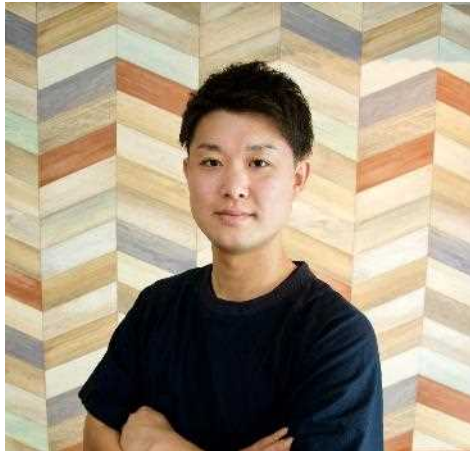


瀬戸焼：光の芸術

実施日：令和4年9月8日 於：デンマーク（コペンハーゲン）

■ 専門家



樽田 裕史 (たるた ひろし)
愛知県瀬戸市在住の陶芸家

名古屋市生まれ。愛知県立瀬戸窯業高等学校陶芸専攻科を修了後、陶芸家波多野正典氏に師事。2011めし碗グランプリ展磁器部門最優秀賞、第65回瀬戸市美術展陶芸部門美術展大賞、第1回日本和 문화 グランプリ優秀賞など数々の賞を受賞。光が透ける「蛸手（ほたるで）」技法を用いながら、透明感溢れる独自の美的表現の探求を続けている。

■ 事業概要



ウェビナー参加者の様子



写真提供 白白庵



蛸手技法の実演



ろくろの上で成形の実演



削りかすの再利用



釉薬の水色が蛸手から漏れ出て「光の芸術」が出現している部分

■ 実施結果

陶芸家の樽田裕史さんが、愛知県瀬戸市の工房から、デンマークの芸術専門学校生徒、陶芸専門家などを対象としたウェビナー講演を実施しました。「ものづくり王国」愛知県の育んだ瀬戸焼の歴史や特徴を解説。樽田さんの作品の特徴である「蛸手技法」を用いた制作実演では、土練りから、繊細な作業を要する切りこみ、窯詰めまでの工程を披露しました。釉薬の水色が、蛸手から漏れる光によって際立ち、「光の芸術」をおりなしている様子は印象的でした。また、SDGsに向けた取組として、削り工程で生じる廃棄物の再利用を紹介。こうした再生作業の発想は、金継ぎを始め、SDGsが提唱される以前から日本に根づいていた文化である旨を説明しました。さらに、窯業界の衰退により伝統工芸を継ぐ若者が減少している現状にも言及しつつ、若手陶芸作家と共に、次世代へこの伝統を受け継いでいく決意が述べられました。講演後、参加者からは、日本とデンマークの食器の違いなど質問が相次ぎ、活発な質疑応答が行われました。